



上部からの光が竈から立ち上る湯気にあたり、美しい光を放つよう設計



寄り付き料理 蔵部

〒長野県上高井郡小布施町807 ☎026-247-5300
営業11時30分～14時30分 閑なし 閑なし

米国人建築家ジョン・モーフォードが手掛けた小布施スタイルに会いに行く

かつて、酒蔵の蔵人たちが食べたというまかないの「寄り付き料理」がコンセプト。蔵人たちを支えた味は、焼く・煮る・蒸すのシンプルなもの。大皿に盛り込まれた一品一品を肴に、樹一市村酒造場で作られた日本酒が味わえる。竈炊きのご飯、魚を炙る炭、香り、蔵人を思わせるスタッフの立ち居振る舞いなど、すべてが酒蔵ならではの歴史に彩られ、訪れる人々を魅了する。

小布施の魅力は滞在してこそ変えたのは町並み修景事業

モーフォード氏が「小布施に来たらこんな宿に泊まりたい」との思いを具現化したのが樹一客殿。新旧、和洋の融合から生まれた



サロン文化を受け継ぎ小布施プライドが蘇る

北斎は89歳でこの絵を書き終え江戸に戻り90歳で他界した。名実ともに絶頂期であった北斎を北信濃の小布施へ招いたのは豪農・高井鴻山。佐久間象山をはじめ幕末時代の志士たちと交流があり、ときの変革に関わり北斎をはじめ多くの文人墨客を招き、新しい風を次々に取り込みつつ、独自の文化を育んでいた。自身も晩年は妖怪画を多く描いた画人でもある。高井鴻山記念館には、肉筆画が残る。

小布施町が大きな変貌を遂げる契機は、昭和51（1976）年に開館した「北斎館」の存在が大きい。町内に残る肉筆画を公開するための場所として、これを契機に北斎館を中心に据え、小布施堂界隈の町並みを美しく再構築。国道403号線の道路の一車線化、歩道に工夫を凝らすなど、歴史的建造物地域の特性を生かした「町並み修景事業」が行われてきた。行政に一方的に期待するのではなく、住民が積極的に町づくりに関わる取り組みが生まれ、育まれている。住む人が主体の美しい町並みが小布施スタイルなのだ。

曹洞宗 梅洞山 岩松院

〒長野県上高井郡小布施町雁田615 ☎026-247-5504
営業9～17時（11月は～16時30分、12～3月は9時30分～16時） 閑年末年始、法要時 閑大人300円、小学生100円 IP30台

八方睨み鳳凰図に無性に会いたくなる小布施の中心地から東へ徒歩で約20分、長野電鉄小布施駅からシャトルバスで約10分の岩松院。北斎晩年の傑作、八方睨み鳳凰図の拝観は何度訪れても興味が持てる。敷地内には俳人・小林一茶の句や、戦国武将・福島正則の菩提寺として霊廟がある

大画面を12分割し床に並べて彩絵した後、天井に取り付けられた。以前は寝ころがることもできたが、振動による作品への影響を鑑みて現在は椅子を用意。ぜひ見つけて欲しいのが、制作時の痕跡として「絵血の跡」と、隠し絵としての「富士山」。

160年経ても色褪せない鳳凰図文化の源は交流の歴史

小布施



長野県の北に位置する小布施は、県内で最小面積のまち。

約1万1000人が暮らすまちは、町役場を中心に半径2km圏内にほとんどの集落が入ってしまう。

一方で、県内屈指の観光地として年間訪れる人は120万人にもものぼる。

田舎ではあるが、洗練された文化と土壌、そして豊穡の食を持つ小布施。このまちの魅力探しの旅へ一緒に。

このまちの魅力を紐解くその鍵のひとつ「交流」。

平日でもまち歩きを楽しむ人で賑わう小布施。最近では外国人観光客や女子旅を楽しむ人たちが増え、四季を通してさまざまな世代、いろいろな国の人たちが訪れ活気づいている。とりわけ、特産の「小布施栗」が旬の秋には歩道に人が溢れるほど。まちの中心部を巡るには徒歩が便利だが、少し足をのばして会いに行つて欲しいひとつが「江戸時代の画狂人・葛飾北斎が描いた極彩色豊かな天井絵「八方睨み鳳凰図」。鳳凰図を見られるのは、まちのシンボル雁田山の麓にある古刹曹洞宗 梅洞山 岩松院。開創は室町時代中頃の文明4（1472）年で、戦国武将福島正則の霊廟も敷地内にある。

鳳凰図は本堂中央の間口6.3m、奥行5.4m大間天井に描かれており、畳21枚分。北斎88歳から89歳にかけての作品で、小布施4回目の来遊時に約1年を費やして描いた。朱、花紺青、藍、石黄などの顔料を膠水で溶いた絵具で彩色し、清（中国）から取り寄せた孔雀石、鶏冠石などの鉱石を使い、さらに金箔4400枚を用いて表現されている。北斎の生涯最大、観る人すべてを包みこむような作品。160年以上を過ぎた現在も一度も塗り替えられていない、貴重なものだ。



桝一客殿

国長野県上高井郡小布施町815 ☎026-247-1111
IN/15時 OUT/12時
料1泊2名朝食付き3万7800円～ 円20台
蔵の存在感と現代的な感覚が融合
旧砂糖問屋の土蔵を3棟、移築・再生してある。
建築家のジョン・モーフォード氏による内装。
全てのお部屋にガラスでできた浴槽が印象的
なお風呂がある。



ゲストハウス小布施

国長野県上高井郡小布施町小布施789
☎026-247-5050 閑なし 料一泊素泊まり8400円
～(プラン、シーズンで変動あり 要確認) 円4台
古い蔵を改装したまち並みに合うお宿
また泊まりたくなる宿として定評がある。ひと
部屋ずつ、バス・トイレ付きの快適な洋室。ま
ち歩きの出点にぴったり。



ア・ラ・小布施ガイドセンター

国長野県上高井郡小布施町小布施789
☎026-247-5050 閑9～17時 閑なし 円4台
※12月第1週から3月第2週まで9～16時、毎週火曜休
情報発信基地を活用しまちを楽しむ
国道403号沿い中町交差点の賑やかな通りに面
する。喫茶店も併設していて、その奥にいくと
美しい庭もある。



風を切る爽快感は最高ですよ。と、原 祐司さん

小布施人力車 原田屋

国長野県上高井郡小布施町大字小布施1180-3(原
田屋自動車内) ☎026-247-2202またはファックス
026-247-6418(要事前予約) 閑なし(平日は貸切プ
ラン) ※雨天は中止 料1例：ひとり3000円、ふた
り5000円

人力車の高さから見る 新しい風景の小布施を堪能

颯爽と小布施のまちを走り抜ける人力車。貸切
は30分、45分、60分、120分を用意。徒歩での
まち歩きも楽しいけれど、人力車にのって果樹
の実る田園地区や、千曲川の堤防沿いに足をの
ばしてみるのもおすすめ。小布施をますます好
きになるはず。



小布施総合案内所

国長野県上高井郡小布施町大字小布施1497-2
☎026-214-6300 閑9～17時 閑年末年始 円なし
小布施駅舎内にあるまちのコンシェルジュ
スタッフやまち歩きガイドが、所要時間や訪れ
たい場所のリクエストを対面式で聞き、提案し
てくれるのが強み。

Column

交流が小布施をつくってきた 〴〵集う、から新しい発想が



「地域間交流」
「世代間交流」
が何より大切
と、市村町長

高井鴻山が葛飾北斎を小布施
に逗留させたのは、北斎の作品
を小布施に残すためだけにではな
かった。北斎が小布施に逗留す
ることで、江戸の新しい情報や人
を連れてきてくれるから。「交流
が小布施をつくってきたのです」
と、語るの、小布施町町長の市
村良三氏。町長就任は2005
年。一貫して伝えてきたのは、小
布施の宝は〴〵人。町民力がまち
をつくり、育てていると語る。現
在の課題は、国道403号の道
路を〴〵道にしていこう。〴〵市庭
(いちば通り)を創生する会とい
う会議を発足させ、まちなみ修
景事業の21世紀版を実現させて
いくべく、取り組む。小布施は訪
れるたび新しい発見のあるのは、
町民が〴〵
丸となっ
て、まち
を大切に
育ててい
るからな
のである。



小布施の未来図を見ているだけでもワクワクする



外部空間の質を重視 気持ちのいい戸外空間へ

手前側から向こうへ続く道、「栗の小径」は、修景事業のひとつ。歩いて行くと、視線がつかあたる部分「アイストッ」。(写真正面)は、蔵の建物の高さも配慮されている

「外部空間の質を重視」すること
を共通認識として1980年代に
はじまった小布施の修景事業。建
物の大きさや位置を工夫して移築・
改築そして新築を行い、気持ちのよ
い戸外の空間を作っていく。直角
の狭いカーブがふたつ交互に繋が
っている道路形状、「グラランク」に
してある。突き当たりに見える場
所を何にするかを意識することに
より、デザイン性が高まるという
考えだ。それらを重視しながら、移
築した蔵などの建物の高さにも配
慮してある。

まちのあちらこちらのデザイン
に気を止めながらまち歩きを楽し
むと一層、まちが面白く見えてく
る。歩いていて心地よいのは、まち
の景色が整っているからだけでは
ない。事業をする際に誰もの志の
中に「内は自分のもの、外はみんな
のもの」という考え方が広く浸透し
ていたからだ。外にみえるものは、
みんなのもの。であれば、それを
200%活用されているのが、今
の小布施の景観なのだ。

まちが面白いのは

小布施の修景事業は
全国の市町村の憧れ
そして、また新たな動き

小布施を もっと知りたい 小布施を人力車で走る まちなかから郊外まで ゆつくり泊まれる素敵宿

小布施駅舎内にある小布施総合
案内所や、まちなかにあるア・ラ・
小布施ガイドセンターには、まち歩
きに欠かせない案内がそろう。小
布施の「会」の楽しみ方を教えてく
れる〴〵強い味方〴〵というところ。旬
を迎えた「栗」情報も、ここですっ
かりと確かめてほしい。あちらで
食べて、あそこで買って、栗をお土
産に買うなど、回りきれないほどの
お店を、お客さんのニーズにあわ
せて教えてくれる。もちろん、次
に来たときのお楽しみまで。小布施
は県内最小面積のまちだが、玉手
箱をひっくり返したように楽しい
ことや美味しいものが満載なのだ。
また、まちをめぐるのに、ここ数
年人気が高いのが「人力車」。威勢
のいいお兄さんが引く人力車に乗
って、風を切って走る感覚はたま
らない。少し高い位置から小布施
というまちを眺めるまちを楽しむ
新しいスタイルなのだ。

ここに立ち寄れば 小布施の文化が瞬時にわかる



北斎研究の拠点として建てられているだけに、迫力あるものを見られる



町並み修景事業の一環として作られた遊歩道「栗の小径」。木のやわらかさが足に伝わり歩きやすい



北斎館

〒長野県上高井郡小布施町小布施 485 ☎026-247-5206
営業 9～17時(季節により変動あり) 休12月31日、臨時休館あり
料 大人1000円、高校生700円、中学生以下無料 〇有料駐車場利用

画狂人葛飾北斎の絵画世界に飛び込む

北斎研究の拠点を目指して建てられた葛飾北斎の肉筆画専門美術館。北斎が小布施逗留時に描いた軸装や額装、屏風絵などの肉筆画ほか、天井絵を制作した2基の祭屋台が収蔵展示されている。

高井鴻山記念館 (2017年3月末まで耐震工事のため休館中)

〒長野県上高井郡小布施町小布施 805-1 ☎026-247-4049
営業 9～18時(10～3月は～17時) 休12月29日～12月31日
料 大人300円、高校生150円、中学生以下無料 〇5台

北斎と親交深めた北信濃きっての豪商の館

江戸時代に多くの文人墨客を招いた豪商高井鴻山が書齋としていた建物や文庫蔵、北斎のために建てた家などを修復して作品や資料を展示。書齋は京風建築でからくり造りになっている。
※事前電話により、見学できる日も時々あり

その北斎を4回小布施に招いたのが、高井鴻山だ。今でこそ、東京から人をお連れするのは容易なことではあるが、例えば、その4回をすべて自分持ちとなると……往時の時代を鑑みれば計り知れないことだったはず。また、北斎が画業に集中できるように、碧瀟軒を作りアトリエに。その碧瀟軒は、鴻山の系統を継ぐ、樹一市村酒造場にその名をついた酒がある。

昨年、北斎館がリニューアルし、ますます興味深い空間へと変化を遂げ、小布施を知りつくした方々からも絶賛の声が聞こえてくるほどだ。北斎館は、まちの中心部にあり、迷子になることなく到着できる場所。岩松院で北斎の天井絵を見た後でも、北斎館で肉筆画を見てから、岩松院へ。もちろん、次回の小布施への旅の楽しみにどちらかをとっておくのもいい。けれども、一生のうちには、ぜひ両方とも訪れて北斎の小布施での画業を垣間見て欲しい。

北斎と鴻山の 親交の足跡を辿る

まち歩きの中に
ふたつの館の面白さを知る
肉筆画に触れる貴重な時間

新しい小布施の顔

洗練された空気をまとう
個性ある店が増えてきた
小布施に似合う場所ばかり

このまちに似合うようにと、誰もが思ってまちに店を開業するわけではない。しかしながら、小布施にこのところ続々と誕生している若い世代が特に集まる店の店主たちは、「小布施のまちに馴染むようにがんばっていきたい」「小布施を訪れたひとが、和んでくれるような店に」と、口々に言う。ここでお店を開くというよりも「小布施で」という意志が強い。まちを知り尽くしたリビーターの観光客たちの鋭くも温かな視線を受けながら、自分たちらしく、小布施に馴染んでいくのが心地いいですというのだ。そのまちに合う、個性。小布施に新しい店ができるても、居心地の定まらない場所がないのはそのせいだろう。

実はカフェが少なかった小布施にも駅前の「つぐみ」や「café銀河堂」がオープンし、まちなかの導線も繋がった。にぎわいは国道403号沿いから郊外までに至る。小布施は行っても行っても、面白いことが溢れて楽しさが止まらない。

鈴木芳彦さん、有子さん夫妻が焙煎したてのフレッシュな珈琲をいただける文化を発信



豆の販売以外にもテイクアウトで焙煎したてのフレッシュな珈琲をいただける。12月からは店内で焙煎体験もできる。詳しくはWebサイト <http://marutecoffee.com/>

マルテ珈琲焙煎所

〒長野県上高井郡小布施町小布施 788 ☎026-285-9582
営業 10～18時 休火曜 〇あり

築120年の蔵に焙煎所
四季折々のオブセブレンド

ゲストハウス小布施を奥に進むと見えてくるのが、マルテ珈琲焙煎所。小布施初の焙煎所で、試飲をしながら購入できるオーナー夫妻の温かい心配りもうれしい。



モンブラン朱雀
1250円(ドリンク付きセット)をミカフェート代表の川島良彰さんプロデュースの朱雀ブランドで



えんとつ

〒長野県上高井郡小布施町808 ☎026-247-7777
営業 季節によって変動あり 休火曜(季節によって変動あり) 〇あり

小布施の洗練された文化を
堪能できる空間でスイーツ

小布施堂の敷地内に立つえんとつ。店内のファブリックはminä perhonenの皆川明氏。内装は中村好文氏という、訪れるだけでも心踊るカフェ。休日は待ち時間覚悟の人気店。

こつこつ 豆と器

〒長野県上高井郡小布施町小布施 228-5 ☎026-214-3435
営業 10～16時 休日・月曜、祝日 〇あり

こつこつ集めた器を多くの人に届けたくて

松村町営駐車場近くにあるカフェ。店主の山上悦子さんがいつかカフェを開きたいと、少しずつ作家さんたちとの縁を大切にできたお店。器だけでなく小物、古道具も揃う。

オーナーの古川恵美さんが小布施にアンティークアクセサリ文化をよびこむ



La Bibeloterie

〒長野県上高井郡小布施町小布施 734-3 ☎050-5551-6066
営業 10～17時 休火・水曜 〇あり

かつての炭の蔵にアンティークアクセサリーを

1900年前半から1970年代の頃のパーツや、オーナーの古川恵美さんが、フランスやベルギーの蚤の市で見つけてきたヴィンテージアクセサリーやパーツが、素敵な空間を埋めつくす。



やはり秋は 小布施で栗を食べるべし



片手で握むとはみ出るくらいの大粒が自慢の小布施栗。旬の頃は、町内の直売所や店先で販売中



小布施堂本宅

〒長野県上高井郡小布施町808 ☎026-247-2027
朱雀券配布時間：8時30分～、配布場所：小布施堂本店、
提供時間：9～14時
※予約、持ち帰りは不可

「朱雀」の季節がやってまいりました

新栗を「蒸して」、「裏ごしして」、「栗あんの上にふんわりと盛る」。何とも贅沢で、この季節だからいただける逸品（1000円税込、9月中旬から10月中旬）。砂糖も加えていないので、新栗本来の味を楽しむ。いただくには、整理券が必要とあって、毎秋大人気のひと品。

さくらいかんせいどう せんせきてい 桜井甘精堂 泉石亭

〒長野県上高井郡小布施町中町779
☎026-247-5166
営業10時30分～18時LO 閑なし 〆あり

創業文化5年の栗菓子店
200年の歩みをお食事処で

栗菓子の専門店のお食事処。文化年間建立の富商・高津屋敷跡に建てられ、秀でた漢詩人でもあった主の号をとって「泉石亭」と名付けた。名物の栗おこわ、香り高い信州そばが付いた甘精堂御膳（2290円）を、旬の野菜やきのこ料理と一緒にいただく。美しい日本庭園や、2階のギャラリーも楽しめる。



パティスリー ロント

〒長野県上高井郡小布施町大字小布施534
☎026-247-2057
営業9時30分～19時
閑火曜、月曜不定休 〆8台

アート作品のような
フランス菓子の宝石箱

遠方からお客さんが楽しみに訪れる素敵なお店。栗の時期のお目当ては、特大のマロングラッセ。小布施の栗を使い2週間以上かけてつくられる逸品。



グラス スタジオ リコ GLASS STUDIO Licco

〒長野県上高井郡小布施町小布施608
☎026-247-2754 営業10～18時（11～3月は11～17時） 閑不定 〆体験は2200円
+ガラス代（500～1200円）+税 〆2台



小布施 鈴花

〒長野県上高井郡小布施町小布施102-1
☎026-247-6487
営業11時30分～14時30分・17時30分～21時30分
閑水曜 〆30台



Art & Craft よしのや

〒長野県上高井郡小布施町小布施609-1
☎026-242-6606
営業10～18時（1、2月は～17時まで）
閑水曜（祝日は営業） 〆4台



ヴァンヴェール

〒長野県上高井郡小布施町小布施34-8
☎026-247-5512
営業11時30分～14時・14～16時ティタイム・18～22時（20時LO） 閑不定
閑1泊2名、ひとり6500円（税込）～ 〆9台

もつと小布施を知るなら 観音通りは外せない



おぶせミュージアム・中島千波館

〒長野県上高井郡小布施町小布施595
☎026-247-6111 営業9～18時（10～3月は～17時まで）
閑12月31日と展示入替時
〆30台

現代日本画家、中島千波の世界と
さまざまなアートにふれる

小布施出身の日本画家、中島千波の常設展示と各種企画展の開催、祭り屋台の展示など見どころ満載。小さなショップやカフェがあるのでゆっくりくつろげる。

あるくたびに 新しい発見が

宝石のようなフランス菓子
美術品を味わった後は

「観音通り」のアート密集地へ

中心部から少し離れて歩いていくと、日本酒の蔵元や栗菓子の店、フランス菓子店、日本料理店、オーブンテラスで開放的にランチを楽しめる店、美術館、ギャラリーなどがうまい具合に立ち並ぶ。どこも魅力的な店ばかりで、オーナーやスタッフたちも気持ちのよい、さりげないおもてなしが心憎いばかりだ。フランス菓子の店は、フランスや都内で修業を重ね、地元・小布施で店を開いたパティシエが、一つひとつ宝石のような光を放ち、うっとりするような美味しさの菓子をつくりだす。また、日本画家の大家・中島千波氏の美術館は、両親が小布施に疎開中に生まれた氏の作品を収蔵・常設展示している。そのほか年間を通じてさまざまな企画展も開催し、いつ訪れても新しい発見がある。アート密集地の観音通りはまち歩きには欠かせない場所のひとつだ。